

先日まで道路の補修工事をしてきた建設会社の作業員が、今日は畑を耕し農作物を収穫する。長引く不況の中、建設業界では新分野に進出する企業が相次いでいる。繰り返される談合による指名停止、公共事業の減少など明るい話題が見られないなか、新分野への進出は、雲が重くたれ込める業界内に明るい光を差し込むことができるのか。

# 追う

青森県弘前市の中心部から車で15分。リンゴ畑の間を抜けた若木山の麓に並んでいるのは、小さなビニールハウスの列、列。中では、2週間前に植えられたワサビの苗、計8000株が小さな葉を広げている。

## 土木作業員、今日から畑仕事

建設不況が続く中、建設業界で新分野進出に生き残りを見いだそうとする動きが活発化している。デイスーパーなどの福祉事業やリサイクル事業、エネルギー供給事業...



ビニールハウスをのぞき込み、ワサビの生育を確認する大場市美・大場建設社長。「大間のマクローと一緒、うちのワサビを売り込みたい」と意気込んでいる。青森県弘前市東岩木山

# 建設不況 新分野へ

特に東北各地で多いのは建設業にならぶ代表的な東北の産業の一つ、農業分野への進出だ。大場社長も「もともと、社員は半分は農業にかかわりを持っていた人間。ワサビ栽培進出に抵抗感は少なかった。

後継者不足とそれにともなう高齢化や休耕地の増加に悩む農業界もこうした動きを歓迎しているという。行政側の支援も徐々に整いはじめた。青森県では新分野に進出する建設業者には県発注工事の入札審査で評価点をプラスする「こと」を決めた。宮城県でも、相談窓口を設け、将来に悩む建設業者にアドバイスを行っている。



大場建設は、平成18年から同じ弘前市内の建設会社「織開発」とともにワサビ栽培に参入した。実験的にワサビを栽培してきた仙台市の建設会社「東北緑化環境保土」から勧められたことがきっかけだった。商品の販路が確保され

た。青森県では新分野に進出する建設業者には県発注工事の入札審査で評価点をプラスする「こと」を決めた。宮城県でも、相談窓口を設け、将来に悩む建設業者にアドバイスを行っている。

## 農業に活路...行政後押し

■先進地は北海道 建設会社の新分野参入で先進地といえば北海道。東北同様、公共事業のウェートが高い土地柄もあり、建設業の地盤沈下が経済に多大な影響を与える中、平成14年から建設業ソフトランディング対策と銘打ち、支援に取り組んできた。道で公共事業に参入している建設業者1万社にアンケートをとったところ、全体の2割にあたる約2000社が何らかの形で新分野に進出していると回答しているという。

い。ホウレンソウでは、本業の建設業を忙しく、収穫日がずれたことから、育ちすぎた商品を市場から突き返されるなどの悲劇も味わった。同社の三上春社長(47)は「建設業界は1件受注すれば1000万、2000万円の利益が生まれ、受注のため100万円や200万円を値下げするとは普通。しかし、農業ではそんな世界はあり得ない。お金の大切さを学んだ」と苦笑い。それでも「いい作物に出会えばメリットはある。ワサビにはチャンスがある」と思っている」と今回の事業成功に期待をかける。青森県は「利益をあげるまでには至っていない」ともがほとんどで、新分野は厳しいというのが現状」としたうえで「ある程度厳しいとわかって進まなければ、新しい道が開けないのも事実。しっかりと相談に乗って助けられれば」と話している。